



〈見えない糸で結ばれて〉

ジャーナリスト
松本 侑壬子

ファッションほど女性の生き方の変化を表現するものはない。絵でも写真でも、女性の衣装をみればその時代や女性の置かれた状態や気分がわかる。

この映画は一九五〇年代のロンドンのファッションハウスが舞台。一筋縄ではいかない恋愛の行方を描く一方、オートクチュール（高級仕立て服）を頂点とした当時のファッションの基盤を支える女性たちの存在にも目を配る。社交界やセレブ女性らの贅沢なドレスの陰には、高価な布からひと針ずつ手縫いで仕上げてゆくお針子たち。中年ベテラン女性職人集団の、失敗の許されない仕事がある。みな腕には誇りがある。唯一無二のデザイナーと職人技術でレイノルズ（デイールイス）は英国のオートクチュール・ファッション界に君臨していた。繊細で気難しくすべてに完璧主義の芸術家であるレイノルズは「結婚で偽りの自分になりたくない」と

して独身。同様に独身の姉シリル（マンヴィル）とふたり暮らし。シリルは、弟が俗事に煩らわされず最高の仕事ができるようにと、マネージャー役として会社の一切を取りしきっていた。

ある日、レイノルズは気分転換に別荘に出かける途中に立ち寄ったレストランで、背の高い素朴な感じのウェイトレス、アルマ（クリープス）と知り合う。夕食に誘い、別荘に案内する。アルマは彼に惹かれるが、レイノルズは結婚はしない理由をきっぱりと言う。

仕立て部屋で、レイノルズはアルマにモデル役を頼み、身体に生地を合わせて仮縫いしながら採寸する。シリルが傍で、サイズを書き留める。

「胸がない」とレイノルズに言われ気にするアルマに、シリルはこっそり「彼は丸いお腹が好き」と耳打ちする。彼に認められたことで、自信がついたアルマは、長時間のレイノルズの採寸に耐

え、ドレスを試着した。

お仕着せのウェイトレスの制服を脱ぎ、豪華なオートクチュールを難なく着こなすアルマにレイノルズは大満足の。プロのモデルたちに伍して堂々とショーの出演をこなすアルマは、今やレイノルズのなくてはならないミューズだ。アルマは、レイノルズのドレスを無理して着た太目の花嫁が、パーティーの途中でついに失神すると、「彼女はあなたのドレスを着る資格はないわ」と激怒。ドレスを取り返して来たアルマにレイノルズはついに心を開き、二人は正式に結婚する。

だが、アルマが存在感を増す中で、レイノルズは彼女のおおらかさが無神経に、無邪気さが図太さを感じられ、神経を苛立たせるようになる。そんなとき、頼りになるのはシリルだ。母親に溺愛されて育った弟を、母亡きあと遺言に従って母親代わりを引き受けた。アルマに優しくしているのは、弟がアルマを必要としているからだ。ガラスの神経の持ち主で天才肌のファッション界の巨匠レイノルズが、二人の女性の強い愛の糸に絡み取られてゆく……。

実は、本作を最後に俳優業から引退を宣言しているというデイールイス。ファンならずともラストが気になる……。

『ファントム・スレッド』

アメリカ映画 (130分)

監督：ポール・トーマス・アンダーソン

出演：ダニエル・デイールイス、ヴィッキー・クリープス、レスリー・マンヴィルほか

公開中

© 2017 Phantom Thread, LLC All Rights Reserved

